

〈巻頭言〉

## 「館長直々」とティク・ナットハン

図書館長・教授      ロバート F. ローズ (仏教学)

昨年春、図書館内に設置されている「館長直々」の投書箱に、次のようなリクエストが入っていました。

ティク・ナットハン (Thich Nhat Hanh) の本をもう少し図書館に置いてほしいです。(中略) 日本語訳がなくても英語だったら辞書をひきひき読みたいと思います。

ティク・ナットハンはまだ日本ではあまり知られていませんが、欧米ではダライ・ラマと並び称されるほど著名なベトナムの僧侶です。ベトナム戦争のさなか、反戦運動に参加したため国外に追放され、それ以降はフランスに移り住み、世界各国で講演活動を行って仏教を広めています。

このティク・ナットハンにはエンゲイジド・ブディズム (Engaged Buddhism) の提唱者として有名です。エンゲイジド・ブディズムは、反戦運動やホームレスの問題など、様々な社会問題に積極的に関わることによって、自己の宗教性を高めていこうという実践的仏教です。このような実践的な仏教へのアプローチは、特にアメリカで広がっていますが、今や世界中で認められるようになってきました。最近では、日本でも徐々に注目されつつあります。

ティク・ナットハンには多くの著作を英語で出版していますが、和訳は数点しかありません。英語でもいいからぜひ彼の本を読みたいという熱意に打たれ、すぐに入手可能なものを発注し、図書館に32冊を購入することができました。ほとんどの登録が済み、二階の閲覧室に並んでいます。私も早速数冊を借り出して読んでみました。

そのなかで特に興味深かったのは Calming the Fearful Mind: A Zen Response to Terrorism (『恐怖の心を静める——テロにたいする禅の対応』) というエッセイ集でした。

9・11以降、ティク・ナットハンには唯一有効なテロ対策は対話であると訴え続けてきました。この本もそのような視点から書かれたものです。そのなかでティク・ナットハンは、テロはテロリストの心の中に潜んでいる怒りや悲しみ、憎しみや痛みに起因すると説き、対話を通してその苦しみの声を真剣に聞いて、それを受け止めなければならないと述べています。さらに、特にアメリカの人々に向って、外国のテロリストに向き合う前に、まずアメリカ国内の差別などで苦しんでいる人々の怒りや悲しみを、対話を通して取り除かなければならないとも指摘しています。

以上のように、ティク・ナットハンには今日の様々な課題を解決するうえで大きな示唆を与えてくれています。今回、新たに本学図書館に入った図書を使って、多くの学生の皆さんが彼の仏教観・人間観を学んでくれることを期待します。



ティク・ナットハンの著作 (図書館所蔵)